

2009年度(平成21年9月期) 第57期 第2四半期決算説明会

(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

2009年11月 9 日

Tokyo Cathode Laboratory Co., Ltd.

©Copyright 2008 TCL All rights reserved

Contents

【連結】

1. 第2四半期業績比較と2009年度予想
2. 売上推移と2009年度見通し
3. セグメント別比較

第2四半期業績比較と2009年度予想

【連結】 区 分	平成20年9月期 【実 績】		平成21年9月期 【実 績】		対前年比	
	金額(百万円)	百分比(%)	金額(百万円)	百分比(%)	増減(百万円)	増減率(%)
売 上 高	7,308	100.0	3,653	100.0	△ 3,655	△ 50.0
売 上 原 価	5,556	76.0	3,052	83.6	△ 2,504	△ 45.1
売 上 総 利 益	1,752	24.0	600	16.4	△ 1,151	△ 65.7
販売費及び一般管理費	1,878	25.7	1,247	34.2	△ 630	△ 33.6
営 業 利 益	△ 126	△ 1.7	△ 647	△ 17.7	△ 520	—
経 常 利 益	△ 180	△ 2.5	△ 637	△ 17.5	△ 457	—
当 期 純 利 益	△ 215	△ 2.9	△ 2,006	△ 54.9	△ 1,791	—

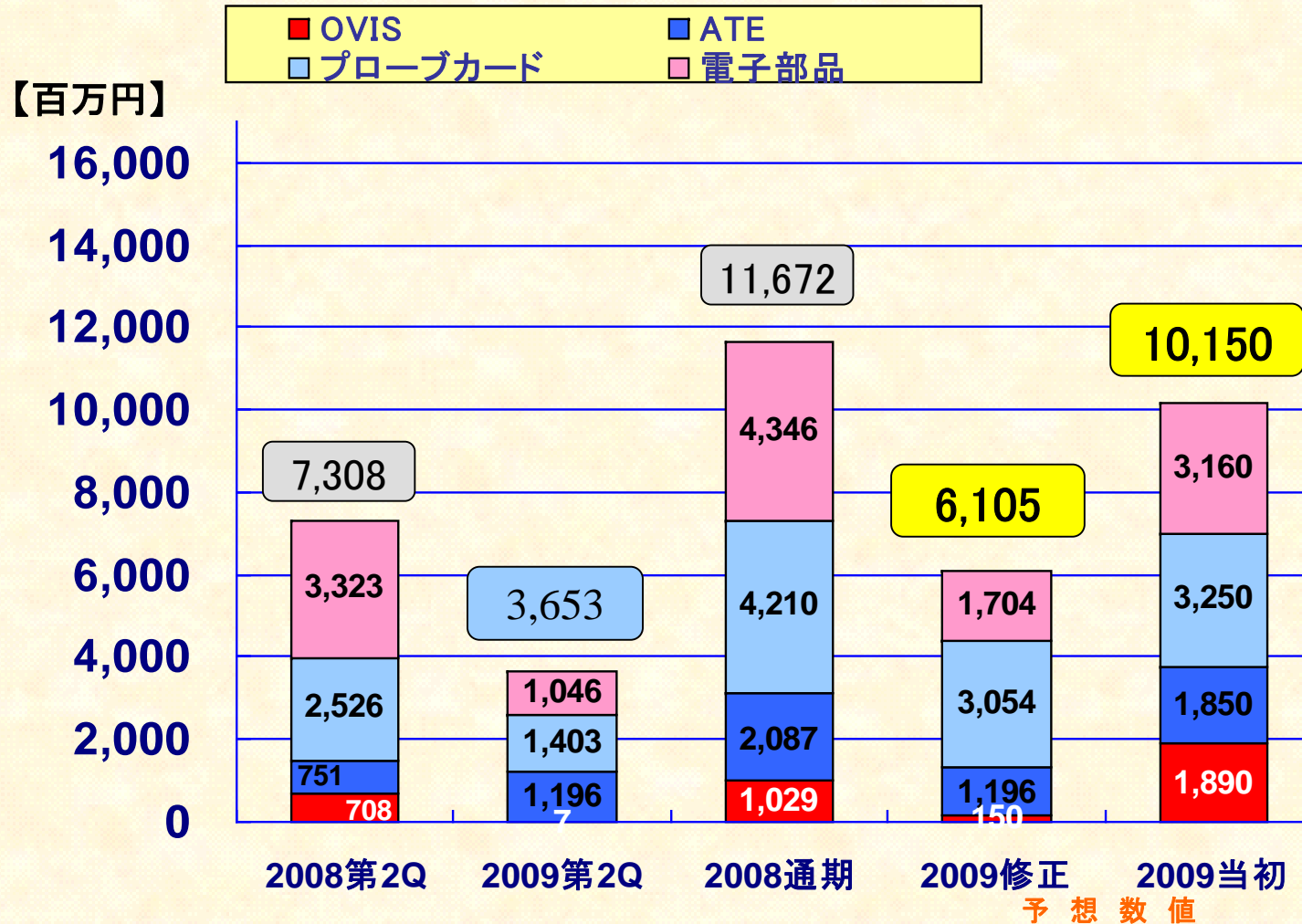
【平成22年3月期】 <(通期) 連結業績予想>

(単位:百万円)

発表日	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2009年10月14日 決算発表	6,105	△ 1,339	△ 1,366	△ 3,135

※ 2009年10月14日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. 売上推移と2009年度見通し

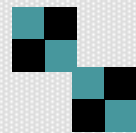


※ 2008年度より、事業の種類別セグメント区分を変更しております。

3. セグメント別比較

(単位:百万円、%)

セグメント		平成20年9月期	平成21年9月期	平成21年3月期	平成22年3月期		平成22年3月期	
		2Q 実績	2Q 実績	通期 実績	<修正予想>	対前年比	<当初予定>	対前年比
電子部品 事業	売上高	3,323	1,046	4,346	1,704	39.2%	3,160	72.7%
	営業損益	431	-123	-47	-487	1022.2%	110	-230.7%
	利益率	13.0%	-11.8%	-1.1%	-28.6%		3.5%	
プローブカード 事業	売上高	2,526	1,403	4,210	3,054	72.5%	3,250	77.2%
	営業損益	-51	-16	-253	15	-6.2%	150	-
	利益率	-2.0%	-1.1%	-6.0%	0.5%		4.6%	
A T E 事業	売上高	751	1,196	2,087	1,196	57.3%	1,850	88.6%
	営業損益	-75	94	9	58	-	40	-
	利益率	-10.0%	7.9%	0.4%	4.8%		2.2%	
O V I S 事業	売上高	708	7	1,029	150	14.6%	1,890	183.5%
	営業損益	-3	-216	-377	-202	53.7%	-10	-
	利益率	-0.4%	-3085.7%	-36.6%	-134.7%		-0.5%	
(小 計)	売上高	7,308	3,653	11,672	6,105	52.3%	10,150	87.0%
	営業損益	300	-262	-669	-615	91.9%	290	-43.3%
消去又は全社	売上高	-	-	-	-		-	
	営業損益	-426	-384	-812	-723		-650	
合 計	売上高	7,308	3,653	11,672	6,105	52.3%	10,150	87.0%
	営業損益	-126	-647	-1,481	-1,339	90.4%	-360	24.3%
	利益率	-1.7%	-17.7%	-12.7%	-21.9%		-3.5%	



2009年度 第2四半期決算報告 電子部品事業

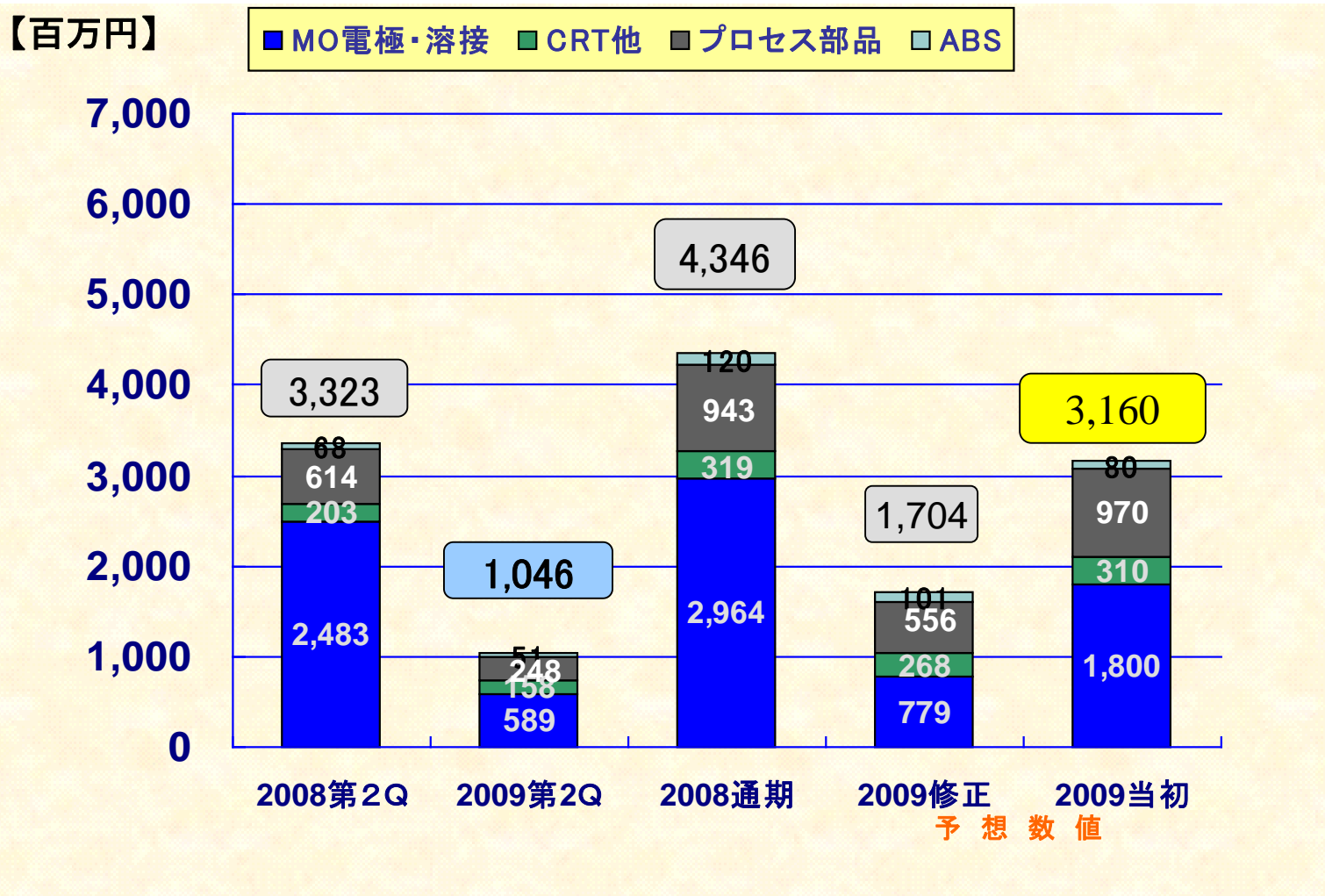
Contents

【連結】

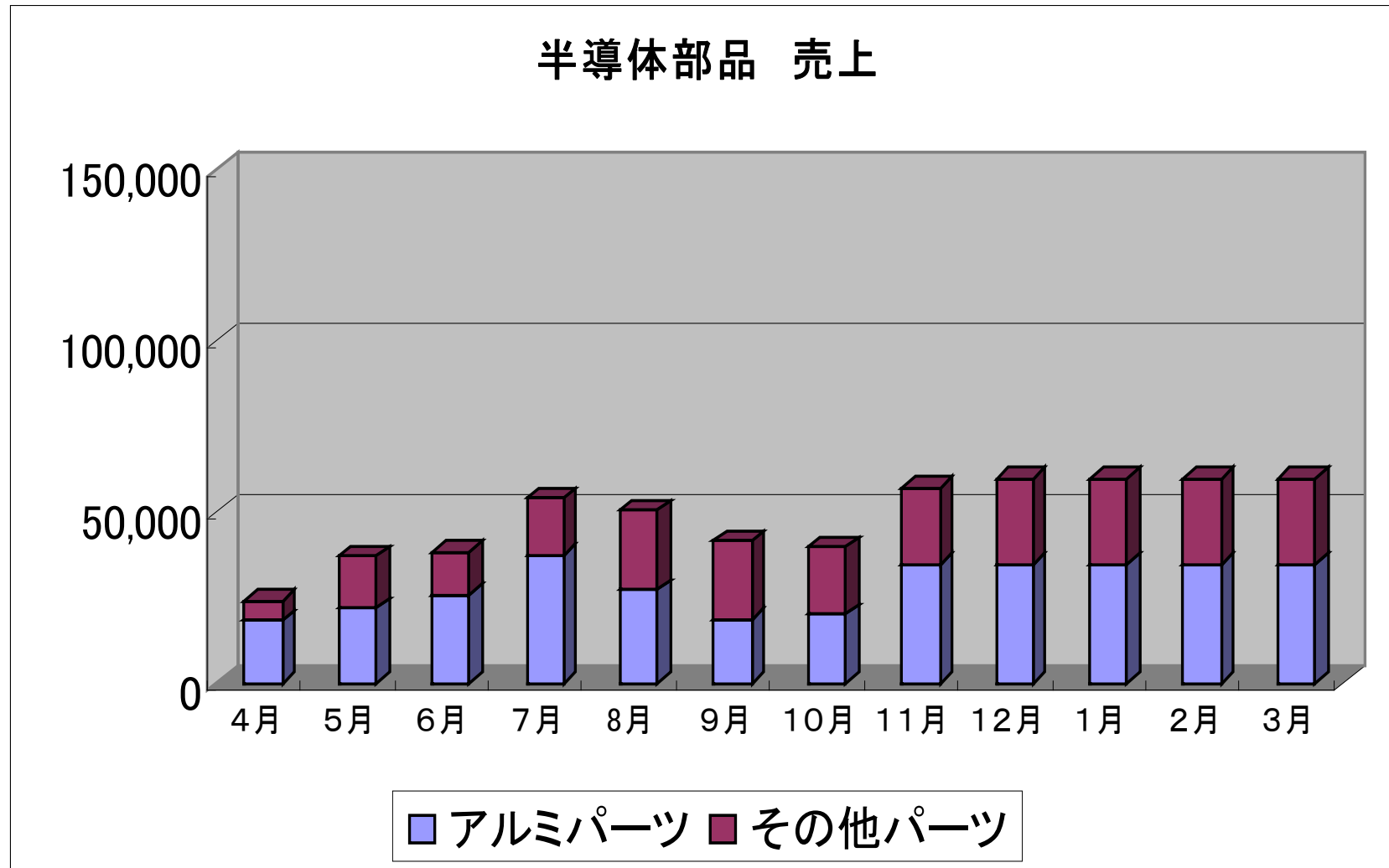
1. 売上推移と2009年度見通し
2. 半導体部品
3. 今後の対応

1. 売上推移と2009年度見通し

電子部品事業



2. 半導体部品



3. 今後の対応

電子部品G事業

■事業撤退

- ・CCFLランプメーカーの海外移転やコスト競争によるMo⇒Niへの置き換え、LEDの急速な台頭などにより、数量／収益ともに悪化。
- ・CCFL電極事業をはじめ、CRT部品関連製品や商品事業から撤退する。

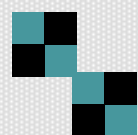
半導体部品G事業

■顧客開拓と拡販

- ・新しい顧客への売り込み強化と、数量増による量産効果でのコスト低減を図り、価格でのメリットを含め、拡販をしていく。

■新商品の投入

- ・新商品の顧客評価を通じ、ビジネス化する。



2009年度 第2四半期決算報告 プローブカード事業

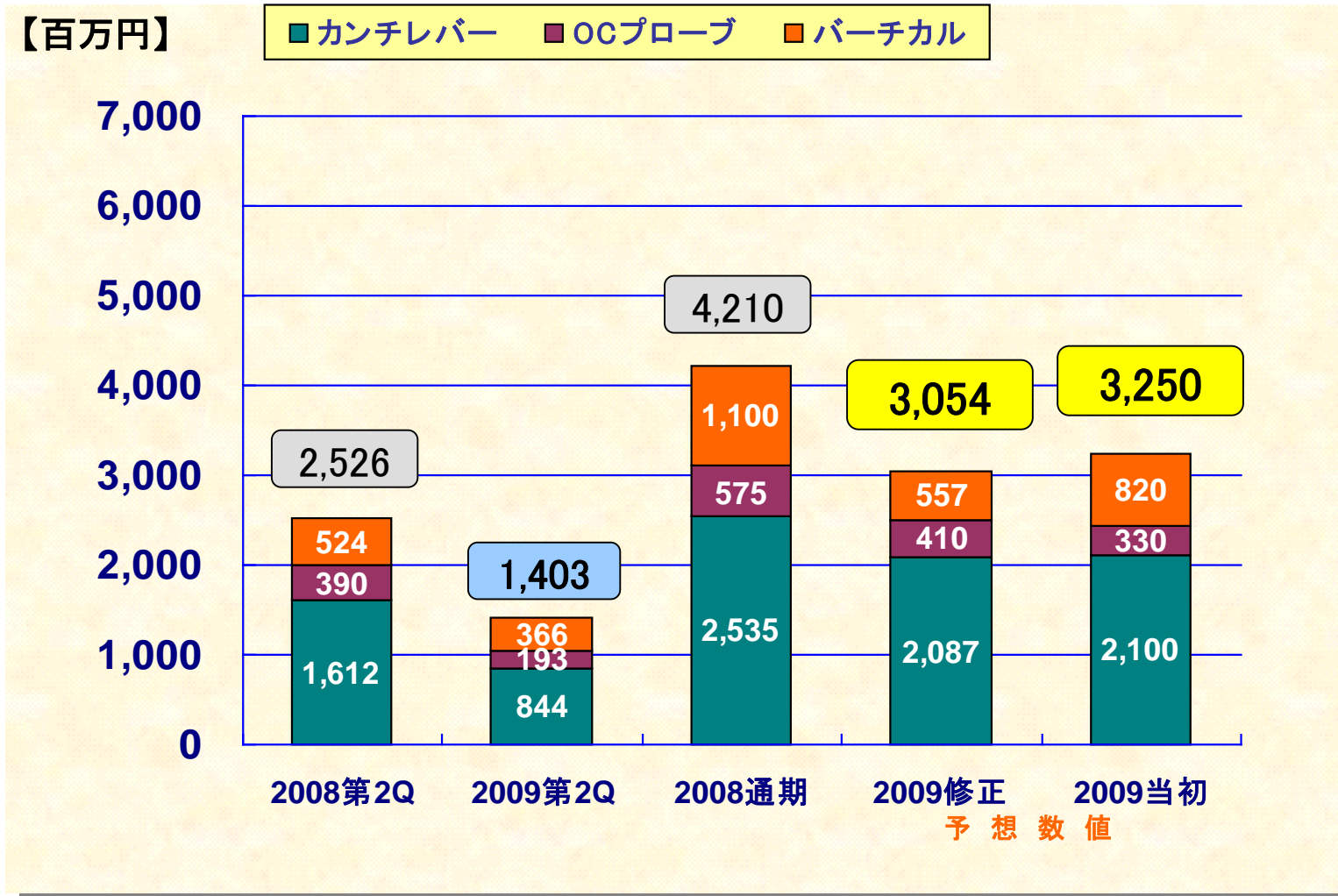
Contents

【連結】

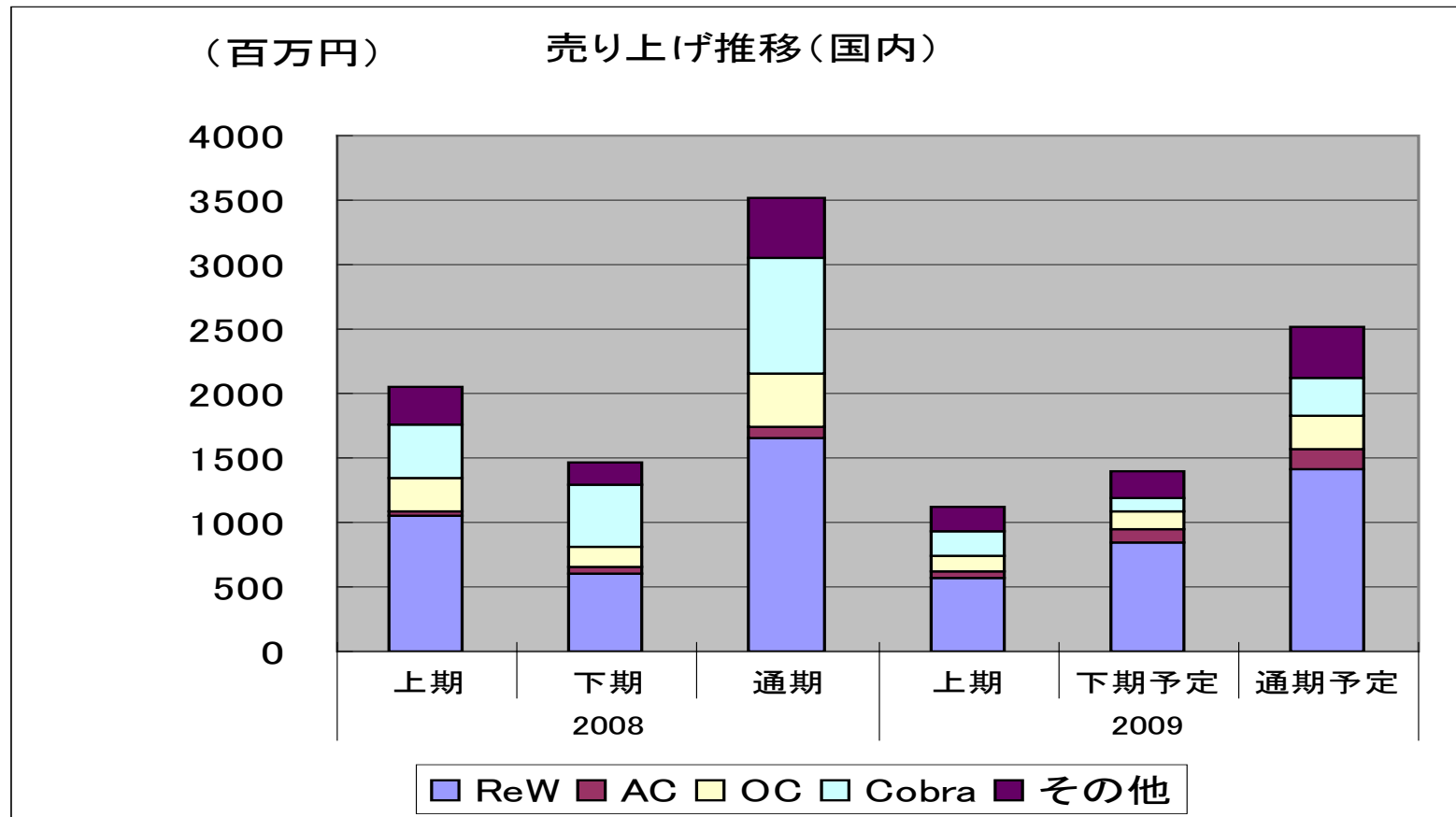
1. 売上推移と2009年度見通し
2. 今後の対応

1-1. 売上推移と2009年度見通し

プローブカード事業



1-2. 【国内】売上推移と2009年度見通し



2008年度下期より始まった売上の減少は2009年度上期を底に下期より好転して行くだらうと期待している。上期はCobraの落ち込み、OCの売上減少が大きい下期にはReW、AC、OCが増加し、Cobraの落ち込みをカバーしたいと考えている。

2. 今後の対応

新製品開発

✓新素材開発

固有抵抗がこれまでの素材より低く、接触性も安定している新素材の開発。

年内に顧客評価完了を予定。

✓垂直プローブカード

70 μ ピッチ対応の垂直プローブカードを開発。社内評価カードの評価がほぼ終わり、顧客評価を来年早々に行い、リリース予定。

事業再編と中期ビジョン

1. 事業部別方針

事業部別方針は、次の通り実施してまいります。

プローブカード(PC)事業

引続き当社の主力事業として、収益性の向上ならびに事業の拡大を図る

電子部品事業

収益性の高い製品(半導体部品事業)に注力し、不採算製品(CCFL事業)は撤退することで余剰資本を注力事業であるPC事業へシフトする

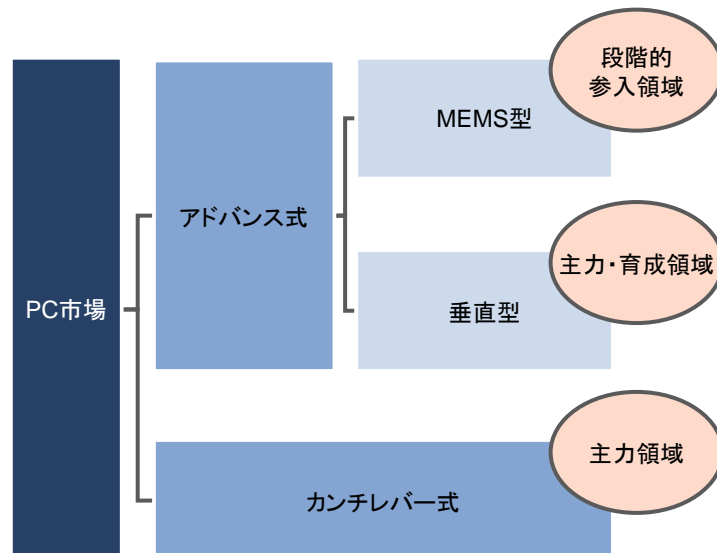
装置事業

不採算部門のため売却または撤退し、余剰資本を注力事業であるPC事業へシフトする

2. 主力事業

主力事業であるプローブカード事業は、次の通り諸施策を実施していきます。

- * カンチレバー型強化と同時に、普及が加速するアドバンス型(垂直型・MEMS型)市場への展開を果たす。
- * 新製品の投入による垂直型プローブカード市場における品揃え強化
- * フォームファクター社との提携を通じたMEMS市場への販売強化



MEMS型において世界トップシェアであるフォームファクター社と代理店契約(2008年11月)。フォームファクター社製品を日本市場において販売強化。必要投下投資が大きいため、単独での参入は当面考えていない。

更なる市場拡大の見込める垂直市場において狭ピッチに対応する新製品を投入。コブラに関しては、生産拠点の統廃合による原価低減により売上拡大を図る。また、海外市場において出遅れていたが今期より海外において一部採用決定。海外市場を各拠点との連携により強化。

成熟市場ではあるが、安定した収益を見込めるカンチレバー型に対して新素材によるテスト効率のアップ、原価低減、生産の拡大によりコストリーダーシップを獲得する。

3. 撤退事業

今期中に収益改善の見込めない3事業を廃止します。

(1) ATE事業

受注活動からキャッシュの回収までの効率が悪く、世界同時不況の影響で今後の売上見通しが立たない状況であるために早期の譲渡を実施。

(2) OVIS事業

受注予定の引合いが軒並み投資収縮で単価が合わず、今後の回復見通しが1年単位で目処が立たないために撤退

(3) 電子部品事業(半導体部品以外)

主力製品であったバックライト電極の市場在庫の最大化と低価格ニッケル電極の更なる価格破壊により高付加価値モリブデン電極との価格差が開き、売上計画と乖離。

更に、当マーケットにおけるバックライトはLED化が進みバックライト電極のマーケットは急速な勢いで減少するために撤退

4. 機会事業（収益が見込める限り継続する事業）

* 電子部品事業（半導体部品）

中核事業ではないが、当面収益貢献が見込める。

中核事業ではないため、環境変化等により、収益化に問題が予想された段階で、継続をするかどうかを含めて速やかな対応を検討する事業

5. 中期ビジョンにおける経営指標

再編前後における連結損益分岐点並びに中期連結営業利益率は次の通りです。

	年度	重要指標
実績	2009年4月～8月 (事業撤退・譲渡等の再編前)	連結損益分岐点売上高: 137億円
見込	2011年3月期 (事業撤退・譲渡等の再編後)	連結損益分岐点売上高: 54億円
目標	2014年3月期 (中期目標)	連結営業利益率: 7%以上

本資料の取り扱い上の注意

本資料に含まれる本年度見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した数値であり、多分に不確定要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等は、業況の変化等により、記載した予想数値と異なる場合がありますことをご了承ください。

ご清聴ありがとうございました。
今後も引き続き、ご支援よろしくお願いいたします。